

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園 いちじく1		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和7年1月24日	評価結果市町村受理日	令和7年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=2393000415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和7年2月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個々の思いを大切に」と職員が一丸となりケアプランとは別に年に一度ではあるが、入居者様のやりたいこと、行きたいところへと思いを聞き叶える「聞きます月間」をコロナになった以来行っている。また、いつまでも自分の口から食事を楽しんで頂きたいと、歯科医師・衛生士から指導を受け個別ケアをお昼の後にしている。舌ブラシやタフトブラシ等も使いケアさせて頂いている。入居者様の力を引き出す活動も日々行っている。手芸・編み物。畑仕事等を生活歴や普段の話から聞き日常に取り入れ生活の質QOLの向上にも努めている。地域との関り・家族との関りもこれから増やして行けるように運営推進会議で呼びかけを行ったり、家族会等を開催して入居者様の笑顔ある生活をこれからも増やして行きたいと考えています。研修も多く取り入れ職員の意識の向上を図っている。職員から「こんな研修をしたい」との声も上がって来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が当ホームの運営管理を任せられ、6年が経過した。初めての管理者経験であり、前管理者からはなむけの言葉「自分の思うとおりにやりなさい」を常に心に留め、「利用者を敬い」、「寄り添い」、「笑いのある」ホームづくりを目指してきた。職員の意識も統一され、理念の実現に向けてのチームワークも醸成されている。6年前の頼りなさそうな姿が、自信にあふれた管理者としての風貌に変っている。利用者の思いを叶える「聞きます月間」の取組みが、コロナ感染症の5類移行によって、さらに充実したものになっている。運営推進会議をはじめ様々な手段を使い、認知症やグループホームに対する地域理解のための啓発を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	支援の方向性を統一するために、運営方針をユニットに掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している	法人理念とは別にホームの理念を定め、「敬い、寄り添い、笑いのある」ホームづくりを進めている。利用者の思いを実現する「聞きます月間」は、理念を実現させるために生まれた取り組みである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、交流館で開催される”観桃会”に写真や入居者さまと作成した作品を展示、また交流館にA4用紙のチラシを置かせて頂いている	地域交流がコロナ禍前の状態には戻っていないが、ホームや認知症を理解してもらう地域への啓発を行っている。交流館での「観桃会」には、毎年利用者の作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の実際の講義を管理者が行っている。また、交流館に施設の様子の子チラシをおかしてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議では、現況報告を書類と日常生活写真を使用したムービーを作成し見ていただいている	年間6回の運営推進会議は、感染症が蔓延した際には書面開催としたが、他は通常の対面開催としている。多彩なメンバーが参加し、ホームからの報告に続き、活発な意見交換がある。	会議の目的事項の一つである「目標達成計画の進捗評価」を行うことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が、市役所と連携して家族様の困りごとのを対応を協力して行っている、今年度は特に連絡を取り合っている	家族に関する困難事例があり、市・高齢福祉課の仲介で「寄り添い支援課」と連携して対応している。寄り添い支援課が主導し、関係者によるコア会議も行われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度研修を実施し、身体拘束とはを再認識し適切なケアが行えるようにしている	身体拘束委員会が毎月の開催され、職員研修は3ヶ月に1度の開催である。直接的な身体拘束の事例はなく、スピーチロック等の間接的な身体拘束に関して学びを深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇委員会より3か月ごとにチラシを掲示し職員周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が講習を受け職員へ周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様、入居者様に理解承諾していただけるよう管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関・グループホーム入り口に意見箱を設置している。意見や要望があれば、運営に反映できるよう努めている	事前予約や30分の時間制限はあるが、家族面会はほぼコロナ禍前の状態に戻っており、居室での面会が可能である。利用者個々に作成される「イチジク便り」やブログが家族から好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員間のコミュニケーションをとり、意見提案、相談出来るよう努めている	毎月グループホーム会議を開催しており、必要に応じて利用者のカンファレンスを行い、その後で意見交換を行っている。欠席した職員には、書面で伝達している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回管理者との面談を実施し職員の困りごとの把握・労働時間の相談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム職員による研修を講師を毎月交代し行っている。資料作成の段階でリーダー・管理者と相談して研修資料を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム分科会に参加し同業者との交流の場を設け、互いの困りごと等の情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご自宅等訪問の際に管理者やケアマネが訪問し要望等お聞きしている。入所後にはすべての要望に答えられるわけではないが、近い形に出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して相談して頂けるような関係作りに努めている。入居前・入居後も話し合える関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談などで入居者様、ご家族様の要望等をお聞きし必要なサービスを見極め支援内容に反映出来るよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人にあった生活が出来るよう、些細な変化に気付けるよう努めている。また、その方の情報を多く聞けるようにコミュニケーションを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時にご家族様入居者様一緒に写真を撮らせて頂き、居室壁面等に飾り、常に見えるようにし訪室時にはお話を聞かせて頂いたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等との関係が切れないように面会等の要望に応えられるよう努めている。	猿投地区の出身の利用者が多く、猿投神社は利用者共通の馴染みの場所である。小グループに分け、ほぼ全員の利用者を猿投神社に連れて行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りコミュニケーションをとり孤立しないように支えている。また隣のユニットへ話に行ったり、散歩時には隣に座ったり一緒に歩いたりされることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも相談や支援が出来るような関係性を大切にしている。連絡があった際は、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを”聞きます月間”にて実現できるようにしている。意思の疎通が困難な方に対しても日頃の発言や心配事を汲み取り対応している。	ICT化を進め、聞き取った利用者の思いはタブレットやパソコン入力により「支援経過」等に記録される。利用者の発した言葉を、ありのまま記述している。	従来の手書きの記録と比較して、時間的な効率化は図られている。ただ、記録の内容が画一化し、希薄になっている。一考を要す。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等大切にし、居室に馴染みのある物をおいていただいたりしている。亡きご主人に手を合わせる等職員も一緒にさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様との関りの中で現状を把握し、申し送りやグループホーム会議等で職員間で情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様家族様の思いに反映するような介護計画を目指している。リーダーや計画作成・管理者が家族や本人様の言葉を職員と共有して計画に反映させるよう努力している。	短期6ヶ月、長期1ヶ年の目標を設定した介護計画が作成されている。利用者の意向を反映させた計画となっており、カメラやパソコンを持ち込んだ新たな利用者には、早くも「個展」開催が持ち上がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等介護記録に記載し情報共有している。本人言葉を記録やカンファレンスの場に落としプランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で変化していく状況を情報共有し、家族様に相談しながらも対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の友人が訪ねて来て下さる。居室や交流スペースで雑談をされ触れ合う機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医からの言葉を家族に伝えたり、家族様の思いを往診医に繋げている。また、施設からの相談事にも往診医自ら応えて下さる。	利用者全員が、24時間対応可能なホーム協力医をかかりつけ医とし、健康管理を委ねている。特別な場合を除き、他科受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員はいない。何かあれば往診医・管理者に報告、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、管理者が医療機関に伺ったり、電話で担当医師、看護師から情報を頂くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期に向けた説明を行い。意見書も記載して頂いている。意見書はいつの変更可能だということも伝えて同意を得ている。	特別養護老人ホームに併設されたホームであり、積極的な看取りは行わない方針である。介護度3で特養への移行を推奨し、継続的な医療行為が必要になれば入院となるケースが多い。(1年間実績:特養2、入院3)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル作成し、職員に周知。管理者による抜き打ち確認テスト実施中。何度も突然行うことでいざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。参加者には感想をきいて次の訓練に生かすようにしている。地域の方に声を掛け参加も呼びかけている。	利用者にも避難行動に慣れてもらうため、年間4回の避難訓練を実施している。備蓄は特養と統合管理であったが、試食の結果、利用者の口に合う食料をホーム独自で備蓄することに変更した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、敬う気持ちで声掛けに努めている。入居者様のプライドを傷つけないように職員同士情報を共有している。	理念の一節に掲げる「敬う」気持ちを、職員の共通意識とするため、研修でも取り上げている。外国にルーツを持つ職員2名にも理解できるように、噛み砕いて説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に関しては、聞きます月間を利用して希望を叶えている。自己決定は、声掛けの段階で本人に決定して頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全部の時間がその人らしくとはいけない部分もあるが、休みたい時には休み食事がしたい時に食べた頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡やくしをお渡しし整えて頂いている。男性には毎朝髭剃りをして職員が整える。好きな服を選んで来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	炊飯器をユニット内に置いてあるため食事の前から気分をあげている。汁物等をよそって頂く。片付けは全員参加で行っている。	ご飯以外の食事は、複合施設の共同厨房で調理されたものが届く。畑で季節の野菜を育て、収穫して食材やおやつづくりに活用している。喫茶店外出に替え、別室で疑似モーニングを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった形状で提供している。水分は要所要所で提供し促している。居室内での水分補給は水筒を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔はもちろん声掛けやお手伝いを行い。昼食が自己で磨いた後に職員が歯科衛生士指導のもと個別ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛けを適宜行い。排泄パターンをタブレットで確認を行う事で失敗が最小限になるように努めている。	4名の利用者は排泄自立しているが、他は職員の何らかの介助を必要としている。全員トイレでの排泄を基本としているが、状況によってベッド上でのパッド交換やポータブルトイレの使用がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないように排便体操や腹部マッサージを毎日の体操に取り入れている。また、乳製品や冷たいお水を摂取して頂き促しも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな日・時間には取り組みが出来ていないが、リラックス出来る空間を作っている。入浴剤等を使用。	男性職員が3名おり、利用者から希望があれば同性介助を行うが、現在では異性介助の問題は起きていない。入浴剤を各種用意し、利用者の希望に合わせて使い分けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、日に当たるようにしている。また、枕カバーは毎週交換し気持ちよく休んで頂けるようにしている。足元が冷える方には湯たんぽ使用		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月2回のお薬情報をファイルに閉じいつでも確認出来るように努めている。薬剤師に困りごとの相談も出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や裁縫を長年行っていた方には職員が間に入り他の方とお話をしながら作業して頂く時間を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族様に協力して頂き、食事や自宅等に気分転換の為外出される。また、本人希望の場合は職員が自宅までお送りすることもある。	感染防止対策として、外出支援を自粛している。喫茶店外出に替え、別室に疑似喫茶店を設え、モーニングを楽しんでいる。複合施設内とホームとの2ヶ所に手作りの神社があり、絵馬やおみくじを作って初詣を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の機会が感染の影響で少なくなっているが、職員と一緒に神社に参拝に行く際は自分で賽銭を持って頂き、おみくじ等の自己にて支払いをして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で親族に連絡している。手紙や荷物が届いた時は職員が声掛けてお手紙や塗り絵をお礼として送っている。年賀状は毎年の行事である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関飾りは皆さんと一緒に季節に合わせて装飾を行っている。廊下には皆さんの日頃の写真を掲示。トイレの場所に迷わないようトイレと張り紙を行っている。	食堂兼リビングの壁面に、利用者と職員合作の季節の飾りつけをしている。暮れから新年にかけては、手作りの絵馬が飾られていたが、現在は節分のぬり絵や魔よけの柊が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は、なかの良い方が近くでお話しやすい環境となっている。また、孤立しないように職員が気にかけて見渡せるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から琴や写真・ダンスを持ち込みなるべくご自宅に近い空間を作っている。荷物が少ない方は、家族写真や塗り絵・手紙を掲示してある。	亡くなられたが、尺八が趣味の元利用者は、ホームで尺八を演奏することを楽しみにしていた。大正琴を持ち込んでいる利用者もいる。カメラが趣味の利用者は、撮った写真をパソコンに取り込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で使う食器類は分かるところに置きいつでも使用出来るまた、ご自身で片付け出来る環境を作っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人 志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園 いちじく2		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和7年1月24日	評価結果市町村受理日	令和7年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigoyosoCd=2393000415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和7年2月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いを第一に考え、可能な限り家と変わらない生活が出来るように支援している。家庭で行ってきた家事仕事や、趣味を継続してできる環境を作ったり、季節を感じて頂けるようなイベントやお菓子作りを行い張りのある生活を送って頂けるよう努めている。また、入居者の体調に配慮しながら毎日体操を行い、天気の良い日は外に散歩に出かけるなど、リフレッシュして頂きながら筋力低下の防止に繋げている。また、口腔ケアに力を入れており、職員全員が歯科衛生士に研修を受け、磨き残しはないか、異常はないか毎日チェックを行い、いつまでも安心して食事を楽しむ事ができるように努めている。地域の方や家族様にも協力して頂きながら、職員全員が入居者様が笑顔で心穏やかに生活して頂ける事を目標に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに運営理念を掲げ、毎日の朝礼の時に職員全員で唱和している。また、運営理念に基づいた支援ができるよう、グループホーム会議で支援方法など話し合いを行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、交流館祭に参加し、入居者様と職員で作成した作品を展示させて頂いている。また、雑巾やぬいぐるみを作り、地域のこども園に寄付させて頂くなど交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流館にグループホームのチラシを掲載したり、包括支援センターの協力のもと、グループホームの生活の様子や、認知症の方の支援方法など地域の方に講演する機会を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状や取り組みを報告している。また、利用者様の生活の様子を写真で紹介し地域の方に理解していただいている。意見を頂けた事は施設に反映するように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が日頃より、市の職員の方と連絡を取り合い、問題があると、市の職員の方に相談し連携をとって対応させて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、職員が繰り返し研修を行い、身体拘束の理解を深めると共に、グループホームで起こりうる行為を理解し、適切なケアができるようグループホーム会議で意見交換している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が講習を受け、職員へ指導・周知すると共に、定期的に研修を行っている。また、他施設で起きた事例を掲示し職員全員が目を通すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受け、職員へ周知している。サービスを必要とする家族様・入居者様には説明をし多職種とも協力して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関しては、管理者が書面を使用し分かりやすく説明させて頂いている。また、質問や疑問があれば、納得して頂けるまで丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関・グループホームの入口にご意見箱を設置している。また、入居者様が思いを話せるような信頼関係を築き、寄り添った支援ができるよう、家族様は面会時にもお話を聞き、反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議で職員からの意見や提案を聞く機会を作っている。また、日頃より職員とコミュニケーションをとり、何でも相談できる関係性を気づき、改善・反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、アンケートや面談を行い、それと合わせて日頃の勤務の様子を通して、職員一人一人の努力や実績を把握している。また、スキルアップの機会も作り、向上心をもって働ける環境づくりも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での月例研修やグループホームでの月2回の研修を行い、日頃より学べる環境を作っている。法人外でも必要とされる研修や、職員が希望する研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市グループホーム文化会や福祉協議会のイベント等に参加し、同業者との交流の場を設けている。また、法人内の各施設とも交流し意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者等が生活されている場を訪問し、お困りごとや要望をお聞きしたり、ご本人の様子を確認している。また、入居後も要望があればお聞きし、安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から相談、要望があれば時間を作り、思いに寄り添いながら対応している。また、いつでも安心してご相談して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で本人とご家族様からの要望やお困りごとを伺い、必要としている支援を見極め、支援内容に組み込んで行けるよう努めている。また、施設での生活をする中で、その都度必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームが入居者様にとって生活の場である事を念頭に入れ、職員と入居者様が一緒に生活を共にする顔なじみの関係性を気づけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のそれぞれの状況を理解したうえで、入居者様とご家族様が良好な関係が築いていけるよう努めている。また、職員とご家族様が協力して入居者様を支えていける関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人との馴染みの関係が途切れないように面会等の要望には可能な限り実現できるように努めている。また、手紙でのやりとりなど要望に沿った支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係が築けるよう、職員が間に入り、会話の橋渡しをするなど一人ひとりが孤立せず楽しい時間が過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様からの相談や連絡も対応しており、入居されている時と変わらない関係性を大切にしている。日頃より、それができそうな関係性を築けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でお聞きした思いや要望は記録に残し、職員間で情報を共有している。また、思いに対応できるようグループホーム会議で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの情報を職員間で共有している。普段の生活の中でも今までの生活歴をお聞きしたり、面会時にはご家族様にお聞きし、家と変わらない生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より一人ひとりの様子を見守り、生活リズムを把握している。また、徐々に変化する現状を記録し、グループホーム会議や休憩時間などで情報を共有してケア向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の思いを聞き取りし、家族様の要望もお伺いしながら検討して計画作成を行っている。職員間でも意見交換し、より良い介護計画が実現できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様との関りや会話したこと、表情や様子など思いがくみ取れた事は記録している。さらに職員間で情報共有も行き、介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化していく入居者様の状況や家族の状況を把握し職員間で情報共有している。また、必要な支援を検討し柔軟に対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設や入居者様の馴染みの場所をお聞きし、外出レクが出来るように企画していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の希望を大切にし、かかりつけ医への受診のサポートや、施設の往診医の上申・連携ができるように努めている。月2回、往診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化に日々注意し、併設施設の看護職員に相談したり、異変があった場合は往診医・管理者に上申・報告・相談を行い、適切な受診を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合は、管理者が定期的に医療機関に伺い、担当医師や看護師と情報交換や相談をする等、関係づくりを行っている。また、家族様とも連絡を取り、情報交換・相談を受けるなど不安解消して頂けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期に向けての施設の方針の説明を行うとともに、家族会・夏祭りなどの機会を利用し定期的に話し合いの場を設けている。また、延命治療等の希望も確認にし思いに寄り添う支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、すべての職員に周知し、定期的実施訓練を行っている。また、外部の研修や自施設に講師を招き研修・訓練を行い施設全体でも緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年4回行っている。また、防災マニュアルを作成し、定期的研修も行うことにより昼夜問わず対応できるように訓練を行っている。地域の方にも運営推進会議を活用し協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である入居者様と顔なじみの関係を築きながらも敬う気持ちを基本とし、声かけ・対応をさせて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で決めるのではなく、入居者様一人ひとりの思いや希望をお聞きし、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活という一日の流れがあるものの、一人ひとりのペースを大切に、居室で休む時間や趣味の時間を設けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整えることが難しい方は、職員が整容のお手伝いをさせて頂いたり、更衣時には着たい服を選んで頂くように支援している。また、整容の研修を行うことで職員に身だしなみの大切さを周知している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は施設厨房から提供される為、日常的な調理はないが、汁物をよそったり、食器洗いや片づけなど準備や片づけを職員と入居者様と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、一人ひとりに合った食事形態で提供している。食事量や水分量のチェックを行い、入居者様の体調に気を付けながら食事や水分の促し、声かけの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他、昼食後に口腔内のチェックを行い、磨き残し・舌磨き・口腔内のマッサージを行い清潔保持に努めると共に、異常がないかも確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人様の気持ちを配慮したトイレの声かけ・誘導し失敗のない排泄をして頂けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄研修を行い、便秘の予防と対応ができるよう努めている。また、日頃の運動の中に排便運動を取り入れたり、下腹部のマッサージを行い、できるだけ薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回、日中の時間帯での入浴にはなるが、なるべく本人様の入りたいタイミングを伺い対応している。また、その日のお気持ちも考慮してゆっくり入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた時間で対応し、体調を考慮しながら休息できるように支援している。また、生活習慣を把握に努め、夜間によく休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬状況を職員がいつでも確認できるように管理し、周知するように努めている。また、本人様に合った服薬方法を掲示し安全に服薬介助を行うことができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、料理、畑仕事など得意としている事を施設でも継続して行って頂けるように支援している。また、『聞きます月間』にて本人様のやりたい事、思いを叶える取り組みを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行いながら、喫茶店や公園、神社へ参拝などへ外出し、気分転換ができるように支援している。また、家族様と連絡を取り合い、一緒に外出ができるように連携を取っている。天候の良い日は施設周りの散歩を日常的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金は事務所にて管理させて頂いているが、外出時のお会計を入居者様にして頂くなど、実際に財布を持ちお金を使うことの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINEを使用しビデオ通話をされたり、希望される方は電話連絡ができるように努めている。また、正月には家族や知人に年賀状を書き、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝入居者様と一緒に共有空間や居室の掃除を行い清潔保持に努めている。また、気温・湿度を確認し、すだれや加湿器を使用しながら快適に過ごして頂いている。季節の草花を飾ったり、壁面には一緒に作成した季節感のある作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士で会話ができるように橋渡しをしたり、隣のユニットに行き交流できるように支援している。またそれぞれの居室に戻り、思い思いに過ごせる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や思い出のある物を持ってきて頂き、安心して過ごせるように工夫している。また、面会時には家族写真を撮り、壁面に飾ることで心地よい空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を付けたり、トイレの扉に表示を付けている。口腔ケアセット等にも分かりやすく名前を付け、迷わず安心して生活ができるように環境を整えている。生活動線において、設備の位置等にも配慮している。		